

### 数学が得意な方も苦手な方も

小畑久美（教育推進センター）



「数学ガール」  
結城浩著 / SB クリエイティブ

「小さな懐中電灯を一つ渡されて真っ暗な部屋に投げ込まれたみたいな気分になる。懐中電灯で照らせるから、前には進める。でも、そのライトは照らす範囲が狭い。自分がどこを歩いているのかわからない。明るいのは、いま照らしている小さな輪の中だけ。(数学ガール p.93 より一部省略)」

数学を勉強していて、こんな風を感じた方は少なくないだろう。今日の授業で習った内容はなんとなく理解できた。問題も解ける。でも、どこか理解できていないような気がすると思ったことのある学生。または数学が苦手で、授業に全くついていけない学生。さらに数学が得意で、よく理解していると感じている学生。これらの学生には一度この本を手にとって、数ページでもいいので読んで貰いたい。

この本は主人公の「僕」、数学が得意な同級生「ミルカさん」と数学が苦手な後輩の「テトラちゃん」のお話だ。いままで曖昧に生きて気付かなかった、数学の素晴らしさに気付いて貰えると思う。

数学の内容が難しすぎると感じる方は、3人の関係性を楽しんで、数学の部分は理解せずに読み飛ばしても構わない。数学が得意な人はミルカさんとの会話を、数学が苦手な学生はテトラちゃんとの会話だけを読んで貰っても良いかと思う。苦手と感じていた学生が分かったと感じたり、得意と感じていた学生が実は理解していなかったことに気付いたりできるかもしれない。さらに、授業で先生が書いている式の意味がより理解できるようになるだけでなく、レポートなどで式を書くのも上手くなるのではないかと思う。工学部の学生にとって数学は便利なツールのはず。得意な方はより楽しさを味わって、苦手な方は少しでも苦手意識を減らして貰えればと思う。

これを読めば数式の素晴らしさを知って、自分で数式を書いてみたくなるかもしれない。



「数学ガール：フェルマーの最終定理」  
結城浩著 / SB クリエイティブ



「数学ガール：乱択アルゴリズム」  
結城浩著 / SB クリエイティブ



「数学ガール：ゲーデルの不完全性定理」  
結城浩著 / SB クリエイティブ



「数学ガール：ガロア原理」  
結城浩著 / SB クリエイティブ